

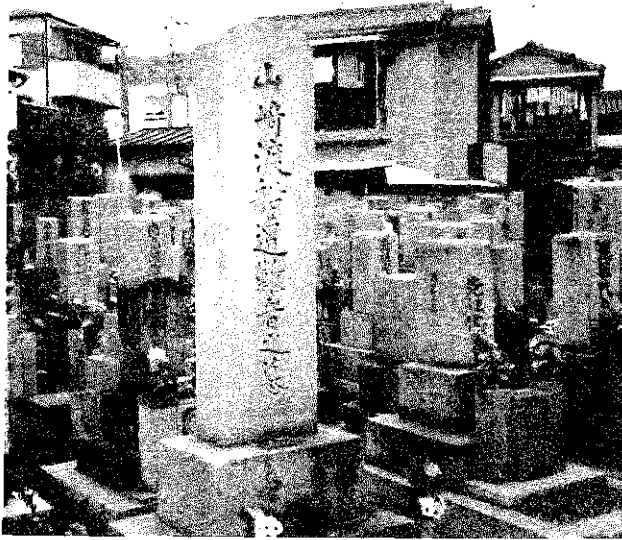
●第40回の『渡船遭難石碑』

(寝屋川市)

寝屋川市の発展は明治43年(1910)4月15日京阪電車の開通によるところ大であり、現在でも重要な交通機関となっている。

大利には江戸時代から『詠歌講』があって、年1～2回の観音霊場参りが村人の信仰とレクリエーションになっていた。今まで歩いて参詣していたが、電車が開通したので初乗りを兼ねて橋本まで電車で行き、柳谷観音詣を開通2週間後の4月29日に一行72人で実施した。

観音参りを終えて帰途、山崎から橋本への渡船に分乗する。その第一船が蒸気船のあおり波を食って転覆してしまった。乗船していたのは19人で、辛うじて3人が助かり、16人が溺れてしまった。この事件は淀川交通史上最大の惨事である。遭難者の霊を弔うべく大利墓地に立派な墓碑が建てられている。



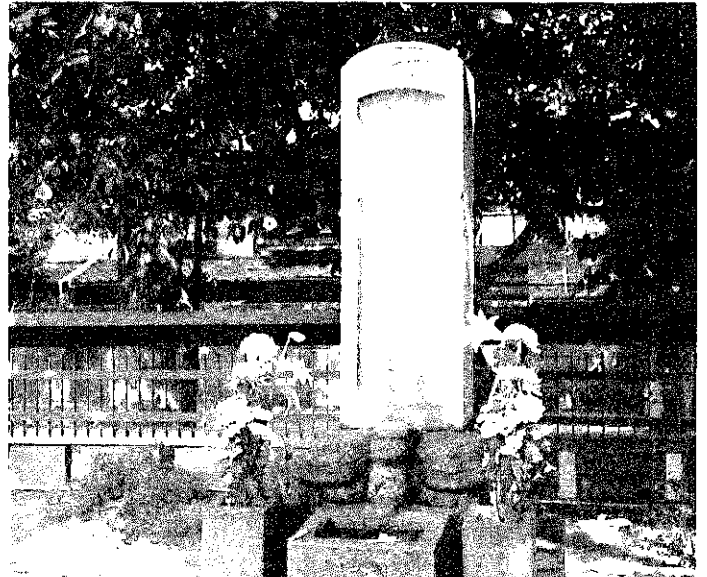
●第50回の『北畠顕家卿墓』

(大阪市)

北畠公園の一角に立つ北畠顕家の墓碑には『別当鎮守府將軍從二位行権中納言兼右衛門督陸奥守源朝臣顕家卿の墓』と刻まれ、大阪府史跡の指定を得ている。この墓碑は『五畿内志』の編者並川誠所の提唱で享保8年(1723)に建ったものである。

南朝の武將北畠顕家は後醍醐天皇に仕え、陸奥守鎮守府將軍として義良(のち)親王と共に陸奥の多賀国府にあって奥羽を統治していた。その後吉野にいた後醍醐天皇の招きで、軍を率いて西上し征途についたが、延元3年(1338)奈良般若坂の戦いで、高師直の軍に敗れ石津川の付近で戦死した。

『太平記』によれば『5月22日和泉の境阿倍野にて討死し給ひければ相従ふ兵悉く腹切り疵を被って一人不残失せにけり』と記され、ここで戦死したと伝えている。



●第60回の『星田妙見宮』

(交野市)

星田妙見宮は、俗に『小松神社』と言い、霊妙不可思議の霊山として崇められてきた所である。太古より生駒山系は岩座信仰が盛んであり、この中であって現在残る数少ない岩座信仰の霊場でもある。

かつては妙見山龍隆院、小松明神、とも言ったが、明治39年星田神社の境外社として、星田妙見宮となった。御神体は二つの巨石で、妙見石とか織姫石とか名付けられ妙見神として崇められている。本殿はなく、拜殿と社務所がある。

七曜の星(北斗七星)が星田の3ヶ所に別れて降った場所の一つ。星の森と光林寺と妙見山を結ぶそれぞれの一辺は八丁ある所から、俗に八丁三所星の聖地と言われるようになった。

